国際シンポジウム　生活世界にみる東アジアの植民地経験

国際学術研討會　従生活領域看東亜的殖民経験

主催（主辦）　「生活世界にみる東アジアの植民地経験」国際シンポジウム実行委員会
淡江大学外国語文學院日本語文學系

日時	２００９年１２月２６日（土）・２７日（日）
会場	台湾・淡江大学　http://www.tku.edu.tw/web/index.asp

プ　ロ　グ　ラ　ム

１２月２６日　　総合司会　西村一之（日本・日本女子大学）

11:00～11:10	**代表挨拶**　崔　吉城（日本・東亜大学） 三尾 裕子（日本・東京外国語大学）
11:10～12:00	**基　調　講　演** **「個人的調査を通してみた台湾、韓国、ベトナムの植民地統治と現在」** 末成道男（日本・東洋大学）

第１セッション　人類学　表象する植民地、表象される植民地

司会　堀江　俊一（日本・中京女子大学）

13:00～13:30	植民地経験の語りを分析すること－台湾日本語世代の語りに関する人類学的アプローチとは 五十嵐 真子（日本・神戸学院大学）
13:35～14:05	忘れがたき「日本」――台湾原住民・ブヌン族高齢者の語りから 石垣 直（日本・横浜国立大学）
14:10～14:40	植民地朝鮮における観光開発 李 良姫（日本・大阪観光大学）
14:40～15:00	コメント　黄智慧 （台湾・中央研究院民族学研究所）
15:00～15:30	ディスカッション
15:50～17:20	**特別企画　鼎談「映像から見る植民地期の朝鮮半島と台湾」** 進行・パネリスト　植野弘子 映像解説・パネリスト　崔　吉城 パネリスト　笠原政治（日本・国立民族学博物館）
18:00～20:00	**懇　親　会** 会場　福格大飯店 司会　礒永和貴（日本・東亜大学）・松金公正（日本・宇都宮大学）

１２月２７日　　総合司会　西村一之

第2セッション　歴史学　利用する植民地、利用される植民地 **司会　木村　健二（日本・下関市立大学）**	
10:00～10:30	戦後在日台湾人の結社活動と言語使用 何　義麟（台湾・国立台北教育大學）
10:35～11:05	戦前期工手学校卒業生の海外活動－植民地台湾を例として 蔡龍保（台湾・国立台北大學）
11:10～11:40	植民地朝鮮における神社政策 崔　錫栄（韓国・檀国大学校）
11:40～12:00	コメント　松田京子（日本・南山大学）
12:00～12:30	ディスカッション
第3セッション　社会言語学　学ぶ植民地、学ばれる植民地 **司会**　彭　春陽（**台湾**・淡江大學）	
13:30～14:00	日本統治初期台湾総督府官吏と台湾の言語 冨田　哲（台湾・淡江大學）
14:05～14:35	伊沢修二の清韓語音研究 藤井彰二（台湾・国立台湾大學）
14:40～15:30	植民地主義に利用された日韓神話 魯　成煥（韓国・蔚山大学校）
15:30～15:50	コメント　中村八重（韓国・韓国外国語大学校）
15:50～16:20	ディスカッション
16:40～18:40	**総　合　討　論** 司会：上田崇仁（日本・愛知教育大学）・上水流久彦（日本・県立広島大学） 討論ポイント提示（各 10 分） 台湾研究　人類学・三尾裕子 歴史学・松金公正 社会言語学・陳培豊（台湾・中央研究院台湾史研究所） 韓国研究　人類学・鈴木文子（日本・仏教大学） 歴史学・原田環（日本・県立広島大学） 社会言語学・山田寛人（日本・広島大学）
19:00～21:00	**宴　会** **会場　淡江大學**

１２月２７日　　エクスカーション

企画責任者　松金公正

史蹟めぐり（淡江大学 9:00 出発→台北県市内古蹟参観→桃園神社→15:00 桃園国際空港到着）

謝辞　本シンポジウムは、淡江大學、財団法人交流協会の支援を受けて開催しております。記して感謝申し上げます。

本報告の一部は、科研費基盤 A「朝鮮半島南部の移住漁村『日本村』に関する調査研究（研究代表者崔吉城）、並びに科研費基盤 A「台湾における植民地主義に関する歴史人類学的研究-「日本」認識をめぐって-」（研究代表者　植野弘子）に基づいている。

問合先　三尾 裕子　東京都府中市朝日町 3-11-1
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
E-mail:　ymio@aa.tufs.ac.jp　Tel: 042-330-5630